

徳川家康と
本門寺堀



第四回 全国小水力発電大会 in 富士宮開催記念



ほんもんじ ぼりようすい はっしょうの ち きねん ひ
本門寺堀用水発祥之地 記念碑 (北山本門寺境内)

徳川家康と本門寺堀

戦国時代※、富士山の周辺で

は駿河国※の今川氏、甲斐国※

の武田氏、相模国※の北条氏に

よる争いが続いていました。

※ 戦国時代：十五世紀から百年近く続いた争いの時代。

※ 駿河国：現在の静岡県中央部。

※ 甲斐国：現在の山梨県。

※ 相模国：現在の神奈川県のうち、横浜市・川崎市を除いた地域。

こうした中、永禄三年（一五六〇）

の桶狭間の戦いで織田信長※が今

川義元※を破ると、甲斐国の武田

信玄※は駿河への侵略を企てます。

※ 織田信長：尾張国（愛知県西部）出身の戦国大名。天下統一を目前に本能寺の変で討たれた。

※ 今川義元：駿河国、遠江国、三河国の三ヶ国を支配した戦国大名。

※ 武田信玄：甲斐国、信濃国（長野県）を支配した戦国大名。





武田氏に攻められた今川氏は、一旦は北条氏の支援を得て、一進一退の戦いを繰り返しましたが、力尽きついに永禄十三年（一五七〇）に駿河国は武田氏の支配下となります。

※とくに永禄十一年から十二年にかけて武田勢は、大宮城（浅間大社大宮司富士氏居館）を三度攻撃しているが、富士信忠等の踏んばりで、最後まで武田勢を苦しめた。



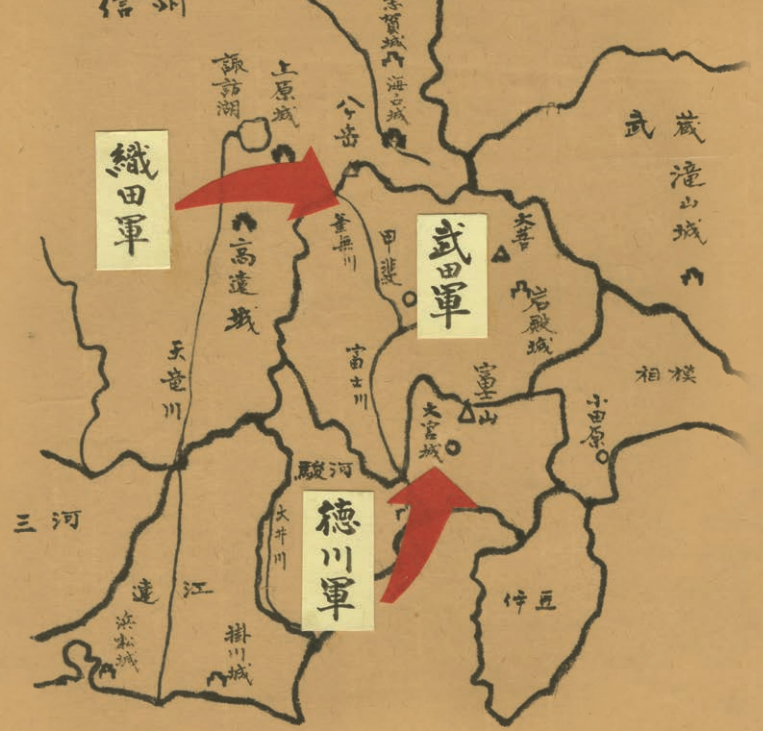
航空写真（大宮城跡付近）



大宮城発掘調査地拡大写真

武田氏の侵略によって、戦乱の地となった富士山の南西麓は大きな被害に見舞われました。しかし、元亀四年（一五七三）に信玄が亡くなると武田氏の駿河国支配にかげりが見えてきます。

※天正九年（一五八二）三月、武田の家臣によって、北山本門寺の宝物類が奪い取られる。



てんしょう

天正三年（一五七五）には、

織田信長・徳川家康連合軍が

信玄のあとをついだ勝頼を長

篠・設楽原の戦いで破ると、

織田・徳川勢は、武田氏を討

つことを決断します。

織田・徳川連合軍は、天正十

年（一五八二）二月、織田信忠※を

大将として信濃国から攻め込ま

せ、同時に家康が駿河国から武

田氏の領地へと攻めこみ、武田

氏は滅亡しました。

※ 織田信忠：織田信長から生前に家督を譲られ
織田家当主となったが、本能寺の変で自刃した。

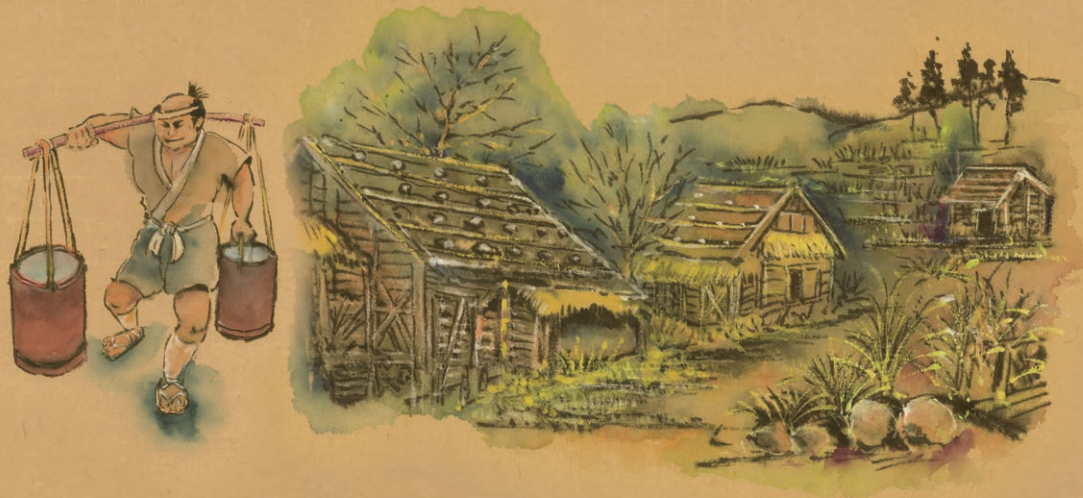
家康は甲斐国を攻める途中、
富士山の西側にあたる北山の
陣屋において北山本門寺の貫
首※日出に会われたと伝えられ
ています。

※貫主：各宗本山の住職の敬称（管主）。

伝えによれば、家康は陣中守
護として御本尊の借用を申し出
たといえます。日出は、これに
こたえて本門寺にひとつだけ
あった日蓮聖人御真筆※の御本尊
を貸し与えたのです。

※日蓮聖人御真筆：日蓮宗開祖日蓮本人の筆跡。





この御本尊ごほんぞんを馬前ばぜんに立てて戦いくさかった徳

川軍かわぐんは、戦いくさいに勝利しょうりしたといひます。その

際さい、武田方がたの撃うつた弾丸だんがんが御本尊ごほんぞんの花押かおう※

に当あつたことで、家康いえやすは危あやうく難なんを免のがれ

ることができたと伝えられています。

※ 御本尊ごほんぞん：以来いらい北山本

門寺もんじでは、この御本尊

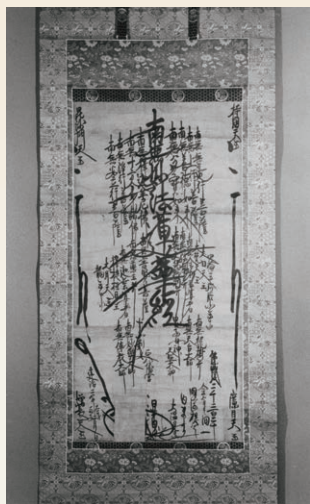
を鉄砲てつぱう曼陀羅まんたろと称なづし、

御宝蔵ごほうぞうとして大切に保

管かんされている。

※ 花押はなおし：署名しよめいの下に書

く判はんのこと。



きたやまほんもんじごほんぞんてつぱうまんだらげんほん
北山本門寺御本尊の鉄砲曼荼羅原本

家康いえやすは勝利しょうりの帰途きと、御本尊ごほんぞんの御礼おれいに本門

寺てらに詣もつで、御本尊ごほんぞんを返納へんのうします。

このとき、家康いえやすは日出ひでに對たいし、寺てらの再興さいこう

を約束やくそくするとともに、「所望しよもうするものがあれば

何なんなりと申し出しられよ」といわれました。

すると日出ひでは、富士山ふじさん南西麓なんせいりやくの水みづに恵めぐまれ

ない地域ちつじようの実情じつじようを訴うたえ、用水路ようすいろの開発かいはつを願ねが

いでたのです。



この申し出に家康は、家臣の
井出正次(志摩守)に用水路開削
を命じます。正次は、芝川の水
を内野横手沢より引く工事を天
正十年八月一日に始め、わずか
三か月半後の十一月十五日には、
見事この用水路を完成し通水さ
せました。

この用水は、北山本門寺の願いによ
り開発されたことから、本門寺堀・
本門寺堀用水・本門寺用水などと呼
ばれてきました。後には延長拡充さ
れ、本門寺周辺(北山)のほか、下
流の外神・宮原・山宮・万野原新田
にまで及ぶ広域の用水路となり、北
山用水と称されています。



富士宮市の主な用水

番号	用水名	取水口名	受益面積(ha)	取水位置	取水河川名	築造年代
1	ひとあなようすい	さき笹	1	いのかしらあざさきみね	しば芝	えどまつき
2	おほはしりょうすい	さき笹	2	いのかしらあざさきみね	しば芝	めいじしよき
3	なかつらようすい	なか村	10	いのかしらあざさきみね	しば芝	しやうわしよき
4	あしがたしち	さか坂	1	うつのなかした	しば芝	かまくらじだい
5	うちのりょうすい	きたがやど	25	うちの内野字北谷戸	しば芝	かまくらじだい
6	きたやまのりょうすい	おほい	150	うちの内野字鍋久保	しば芝	えどまつき
7	はんのりょうすい	わだつみ	50	うちの内野字和田川原	しば芝	えいらくねんかん
8	はらりょうすい	やまのかみ	36	はらの原字山神	しば芝	えいらくねんかん
9	かみいで	しば山	22	かみの上井出字芝山	しば芝	ふみょう
10	かりやど	たきもと	12	かみの狩宿字滝元	しば芝	ふみょう
11	おほせぎ	おほ堰	220	かみの上条字千厩	しば芝	えどまつき
12	なかせぎ	み水ノ口	40	かみの上条字水ノ口	しば芝	えどちゆうき
13	しんぼり	とくせ	70	しんぼりの新堀字徳瀬	しば芝	えどちゆうき
14	だいかんじ	かわか	30	だいの代官寺字川欠	しば芝	えどまつき
15	ながとら	まへ	20	ながの長瀬字前田	しば芝	ふみょう
16	あやま	つばせ	310	あやまの安居山字燕	しば芝	てんすい
17	さんく	さんく	125	かみの上柚野	しば芝	ふみょう
18	くぼ	くぼ	6	くぼの久保	しば芝	めいじいぜん
19	すずまた	すず又	20	くぼの鈴又	しば芝	めいじしよき
20	あわらぐち	あわらぐち	10	あわらぐちの阿原口	うら潤井	えどまつき
21	のちゆう	あづま	20	あづまの野中	うら潤井	えどまつき
22	やと	やと	15	やとの山本谷戸	うら潤井	めいじしよき
23	きぎょうじ	きぎょうじ	15	きぎょうじの小泉木ノ行寺	うら潤井	めいじしよき
24	さくらだ	さくらだ	20	さくらだの小泉字タヤ	うら潤井	えどまつき
25	みずくぼ	みずくぼ	78	みずくぼの青木字西山	うら潤井	えどまつき
26	ながぬき	ながぬき	10	ながぬきの長貴	ふじ富士	ふみょう
27	かざまつり	かざまつり	14	かざまつりの風祭	ふじ富士	えどまつき
28	しんぼり	しんぼり	29	しんぼりの新堀堰	ねこ猫	ふみょう
29	おほい	おほい	21	おほいの西山	にしやまはつでんしよ	えどまつき
30	はぶな	はぶな	17	はぶなの西山	あやま	えどちゆうき
31	えがしわ	えがしわ	5	えがしわの江柏	あしと	たいしやうしよき
32	くろ	くろ	40	くろの黒田	あしと	めいじちゆうき
33	した	した	20	したの下堀堰	しんざ	ふみょう
34	ほら	ほら	10	ほらの洞堀	しんざ	めいじいぜん

※本門寺堀用水のことです。

北山用水開発以前のこれらの地域は、富士山の沢のほとんどが涸沢(水無川)で水を得ることはできず、若千の湧水があるのみで天水(雨水)に頼っていました。

北山用水の成立は、こうした村々の生活用水の確保につながり、畑作の生活を水田稲作地へ変革してきました。さらには、用水に掛けられた水の動力の普及による社会生活や食文化の変革をもたらしたのです。



北山用水～山宮用水～万野用水

富士宮市と小水力発電

富士宮市は美しい富士山ときれいな水に恵まれたまちです。富士山から湧き出した水は川となって市内に流れ込み、この水の流れと自然の地形を巧みに利用したのが水力発電です。富士宮市のように高低差があり起伏に富んだ地形は、水力発電にとっても適しています。市内にはダムを作るほどの大きな河川は多くありませんが、古くから小さな河川や用水路を利用して、発電事業が行われてきました。※1

現在、富士宮市には26箇所の水力発電所があります。そのうち12箇所は発電量が1000キロワット以下の小水力発電所として稼働しています。

富士宮市ではこの小水力発電所の箇所数と最大発電出力の合計がともに、日本一のまちとなっています。(平成30年9月時点)

※1 富士宮市内における水力発電事業は1907(明治40年)から始まり、翌年には潤井川を利用して発電された電気です。市内に初めて電灯が灯りました。

小水力発電は小さな河川や用水路を使って発電できる、生活に最も近い発電所なんだよ!





1 おおだなはつでんしょ 大綱発電所

発電事業所：東京発電㈱
使用開始年：昭和20年
最大出力(kW)：630
最大使用水量(m³/s)：5.00
有効落差(m)：15.65
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：芝川、五斗目木川



2 しらいとはつでんしょ 白糸発電所

発電事業所：東京発電㈱
使用開始年：大正5年
最大出力(kW)：860
最大使用水量(m³/s)：4.174
有効落差(m)：23.75
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：芝川



3 はんのはつでんしょ 半野発電所

発電事業所：東京発電㈱
使用開始年：昭和22年
最大出力(kW)：200
最大使用水量(m³/s)：0.83
有効落差(m)：34.50
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：半野川



4 くまくぼはつでんしょ 熊久保発電所

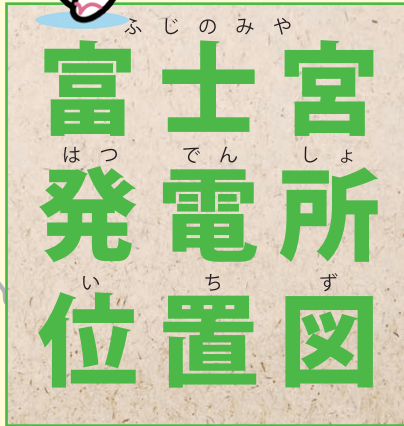
発電事業所：王子エフテックス㈱
使用開始年：大正8年
最大出力(kW)：485
最大使用水量(m³/s)：1.113
有効落差(m)：53.180
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：半野川/原川



5 かのんばしはつでんしょ 観音橋発電所

発電事業所：東京発電㈱
使用開始年：大正13年
最大出力(kW)：970
最大使用水量(m³/s)：1.67
有効落差(m)：72.03
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：芝川

ふじのみやしな
富士宮市内にある
しょうすいりょくはつでんしょ
小水力発電所について
まな
学んでみよう!!



6 まとばはつでんしょ 的場発電所

発電事業所：王子エフテックス㈱
使用開始年：昭和11年
最大出力(kW)：250
最大使用水量(m³/s)：1.948
有効落差(m)：17.170
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：大堰川



7 まとばだいはつでんしょ 的場第二発電所

発電事業所：王子エフテックス㈱
使用開始年：昭和27年
最大出力(kW)：270
最大使用水量(m³/s)：3.060
有効落差(m)：11.402
型式：カプラン(立軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：大堰川



8 ねこざわはつでんしょ 猫沢発電所

発電事業所：東京発電㈱
使用開始年：昭和26年
最大出力(kW)：400
最大使用水量(m³/s)：1.66
有効落差(m)：33.35
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：猫沢川



9 あおきはつでんしょ 青木発電所

発電事業所：東京発電㈱
使用開始年：明治44年
最大出力(kW)：840
最大使用水量(m³/s)：1.391
有効落差(m)：75.90
型式：フランシス(横軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：大堰川



10 おおしかぼはつでんしょ 大鹿窪発電所

発電事業所：東京発電㈱
使用開始年：昭和3年
最大出力(kW)：770
最大使用水量(m³/s)：5.565
有効落差(m)：16.97
型式：フランシス(立軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：芝川

11 ふじのみや 富士宮マイクロ すいりょくはつでんせつび 水力発電設備

発電事業所：王子マテリア㈱
使用開始年：平成29年
最大出力(kW)：45
最大使用水量(m³/s)：0.278程度
有効落差(m)：25.0
型式：Spiral casing Pump Turbine
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：湧水



12 しほとみはつでんしょ 芝富発電所

発電事業所：中部電力㈱
使用開始年：大正15年
最大出力(kW)：630
最大使用水量(m³/s)：11.409
有効落差(m)：7.43
型式：プロペラ水車(立軸)
発電形式：水路式
発電方式：流込み式
利用河川：芝川

富士宮市では
新たに市内4ヶ所で、
小水力発電所の
建設を予定しております。

水力発電のしくみ

水力発電とは？

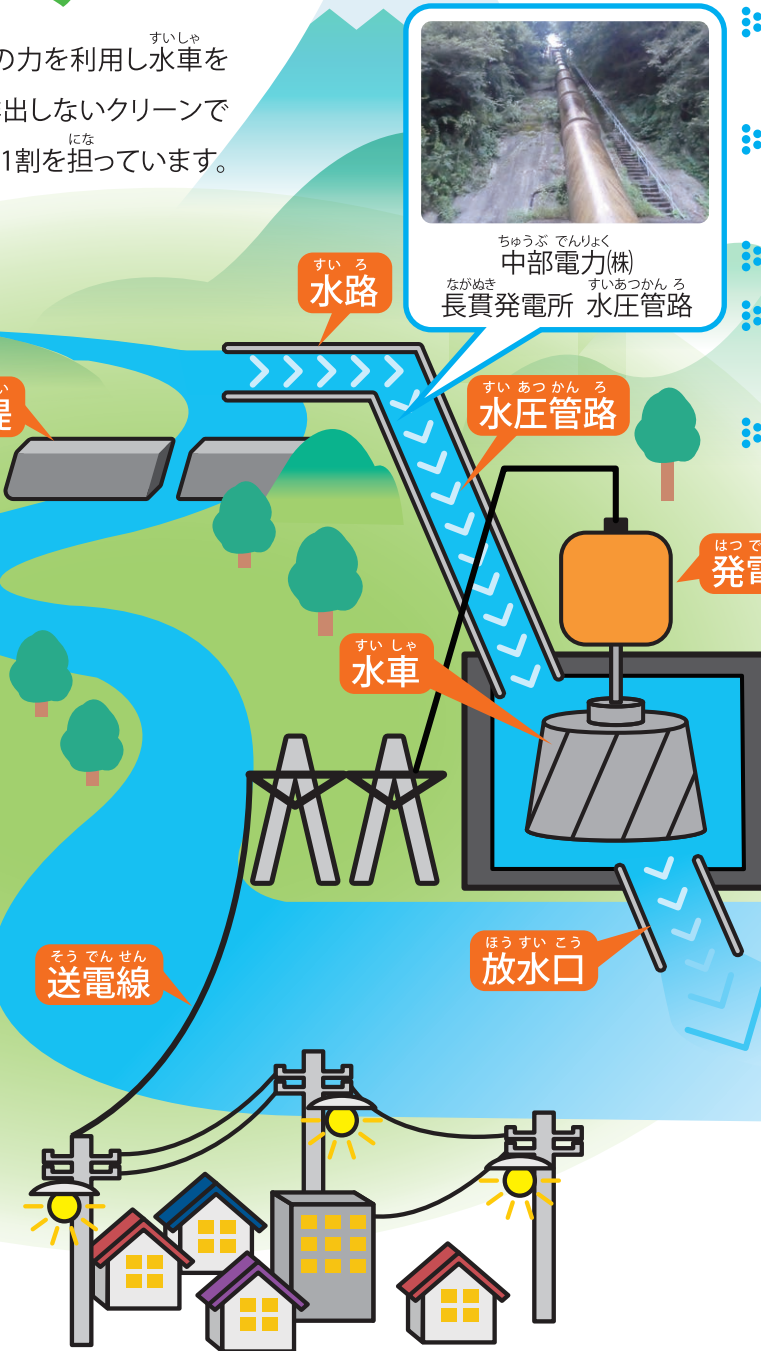
水力発電は、水が高い所から低い所へ流れるときの力を利用し水車を回すことで、発電機を動かし発電しています。CO₂を排出しないクリーンで再生可能な発電方法であり、日本の電力供給量の約1割を担っています。

発電形式 (落差を生じさせる方法)

- ❖ **水路式**
河川の上流から水路によって必要な落差が得られる場所まで水を導き、そこからの落差を利用して発電する形式
- ❖ **ダム式**
川の途中にダムを築き、水を貯めて得られた落差を利用して発電する形式
- ❖ **ダム水路式**
ダムと水路を組み合わせて得られた落差を利用して発電する形式

発電方式 (水の利用方法)

- ❖ **流れ込み式 (自流式)**
※富士宮市内の小水力発電所の多くはこの発電方法を採用しています。
川の水を貯めることなく、そのまま水路に引き込み発電に使用する方式で、一日中ずっと発電しています。他の方式の発電と比べて設備や発電所用地が小さいものが多く、建設費用もおさえられる利点があります。
- ❖ **調整池式**
夜間や週末の電力消費の少ない時間に発電を控えて川の水をダムに貯め込み、電力需要 (工場や家庭等での電力使用量) の増加に合わせて水量を調整しながら発電します。
- ❖ **貯水池式**
大きなダムに雪解け水や梅雨、台風などの水を貯めておき、電力が多く消費される時期や時間帯にこれを放水して発電します。
- ❖ **揚水式**
発電所をばさんで貯水池を上流と下流に持ち、昼間、電力需要が多い時間に下流の貯水池に放水して発電し、電力需要が少ない時には余った電力を使って上流の貯水池に水を汲み上げ、再び昼間の発電に備えます。



特徴

- ❖ **クリーンで再生可能なエネルギー**
(CO₂を排出せず、永続的に利用可能)
- ❖ **純国産のエネルギー**
(輸入に頼らない国内の資源「水」を利用)
- ❖ **日本の地形 (山や起伏が多い) を有効活用**
- ❖ **太陽光や風力等による発電方法よりも**
天気の影響が少ない
- ❖ **供給安定性に優れている**
(年間の流量はほぼ一定)

富士宮市は富士山の
伏流水のおかげで、
比較的安定した
水量が確保
できるんだね！



水車の種類

フランシス水車

※富士宮市内の多くの水力発電所で採用しています。
水の圧力と流れる速さを利用して回す水車です。水が落ちる力で発電し、高さ数十メートル～数百メートルまで幅広い落差に対応できるため、日本の水力発電所の約7割が利用しています。

日本一の小水力発電のあるまちづくり

富士宮市は、第5次総合計画の中で『富士山の自然と調和した循環力あるまちづくり』を、また、第2次環境基本計画の中では『富士山の恵みを次世代につなぐ地球にやさしいまち』を目指し、地域特性を生かした、小水力発電を推進しています。

市内小水力発電所の箇所数と最大発電出力の合計がともに日本一であることから、「日本一の小水力発電のまち」を全国へPRすることを目的に、日本一の小水力発電のまち標柱を設置しました。



標柱 ※白糸発電所付近

市長のことば



世界遺産富士山に抱かれた富士宮市は、富士山の恵みである水資源が豊富なまちです。湧水を源とする芝川や潤井川から水路として引かれた水は、農業用水・生活用水として利用され、現在の私たちに豊かな生活をもたらしています。

こうした今があるのも、先人たちが大変な努力を払い、いくつもの用水路建設に携わってきた賜物です。

この『徳川家康と本門寺堀』も、そうした先人たちの偉業を物語るエピソードの一つです。本門寺堀は本門寺用水とも、北山用水とも言われ、今も私たち市民の命の水を運び続けています。

家康公の律義さと日出上人の民衆や地域を思いやる先見の明に、今一度感謝し、いかにして富士宮市が水を生かした豊かな地になったのかを改めて感じていただければと思います。

この冊子が用水路の歴史とともに、生活に身近な小水力発電に関心をもっていただくきっかけとなり、これからの小水力発電の未来を照らす一助となることを祈念しております。

富士宮市長 須藤秀忠

徳川家康の歩み

年

できごと

- 天正十一年（一五四一） 三河国・愛知県に生まれる。
- 永禄三年（一五六〇） 織田信長、桶狭間の戦いで今川義元を破る。
- 永禄五年（一五六二） 信長と同盟を結ぶ。
- 元龜三年（一五七二） 三方ヶ原の戦いで武田信玄に敗れる。
- 元龜四年（一五七三） 信玄が死去。
- 天正三年（一五七五） 長篠・設楽原の戦いで織田・徳川連合軍が武田勝頼を破る。
- 天正十年（一五八二）二月 織田信忠が信濃国から、家康が駿河国から武田氏の領地に攻め込む。
- 三月 勝頼が自害し、武田氏滅亡。
- 四月 信長が富士を遊覧し、安土城に帰る。（家康が富士西麓での護衛接待の任に当たる）
- 六月 本能寺の変で信長が家臣の明智光秀に討たれる。
- 天正十三年（一五八五） 豊臣秀吉、関白となり豊臣政権が確立する。
- 慶長五年（一六〇〇） 関ヶ原の戦いで石田三成らを破る。
- 慶長八年（一六〇三） 征夷大將軍となり、江戸幕府を開く。
- 慶長十九年（一六四四） 大阪冬の陣
- 慶長二十年（一六四五） 夏の陣で豊臣氏を滅ぼす。
- 元和二年（一六六六） 死去する。（七五歳）

〈参考文献〉

1. 『鉄砲御本尊の靈驗と本門寺堀』：北山本門寺が1981年に編纂した『日興上人六百五十遠忌記念 本門寺並直末寺院縁起』に収載された北山本門寺の寺伝をもとに作成しました。
2. 「ふじのみやー小学校社会科地域学習資料－(改訂24版)」『昔のくらしと人々の願い』2018年3月発行、富士宮市教育委員会。

第4回 全国小水力発電大会 in富士宮 開催記念 「徳川家康と本門寺堀」

平成30年(2018) 11月発行 初版

第一章

監修／富士宮市立郷土資料館 館長 渡井一信

編集／富士宮市・環境企画課・環境エネルギー室

第二章

編集／富士宮市・環境企画課・環境エネルギー室

絵・題字／志村雅芳

発行／富士宮市

〒418-8601

静岡県富士宮市弓沢町150番地

☎0544-22-1111

http://www.city.fujinomiya.lg.jp